

平成 28 年 5 月 16 日

株式会社 道北エナジー 御中

「道北 7 事業（増幌・樺岡・川西・川南・勇知・芦川・豊富山）風力発電事業環境影響評価準備書」について以下のとおり意見書を提出いたします。

特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク
代表理事 高瀬 清
北海道天塩郡豊富町字豊富東 2 条 5 丁目

公益財団法人 日本野鳥の会
理事長 佐藤 仁志（公印省略）
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

日本野鳥の会道北支部
支部長 小杉 和樹（公印省略）

北海道ラムサールネットワーク
代表 小西 敢（公印省略）
北海道苫小牧市植苗 150-3

（公財）日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ内（事務局）

■基本的な考え方

・利尻礼文サロベツ国立公園とその周辺は、国内最大の高層湿原があり、どこまでも何もない平原やそこから眺める雄大な利尻富士の景観を求めて多くの人々が訪れる。また鳥類をはじめとする国内を代表する貴重な野生生物の生息地であり、渡り鳥にとっては国内有数の重要な渡り経路となっている。特に水鳥にとって国際的に重要な中継地であるラムサール条約湿地となっている。私たちは風力発電の重要性は理解しているが、全体としてサロベツを取り囲み、宗谷地方を覆うような風車建設計画には様々な問題点があると考えます。加えて、現状ではこれらの地域において、水鳥をはじめとした渡り鳥の生態について明らかになっていない点が多い。私たちは急激な風車建設により、今後永きにわたって利用し続けられる利尻礼文サロベツ国立公園とラムサール条約登録湿地やその周辺の自然環境の観光資源を含めた資質を損なう恐れが大きいと懸念する。地域住民やサロベツとその周辺を愛する人々が内容を理解するために、渡り鳥の不明な生態を明らかにした上でもう少し時間をかけて建設による影響を検証すべきと考えます。

以下に準備書の個別内容についての意見を述べる。

■準備書の縦覧方法

・準備書の縦覧方法に以下の点で制限が多い。このため準備書の内容の理解や影響の評価を困難にさせている。これでは地元や関係者の理解を得ることは難しい。この状況では都合の悪い結果があったと推定せざるを得ないため、改善を図るべきである。また過去の同様な縦覧に関しての意見に対しての対応を着実に実行するべきである。

1. 縦覧場所が少なく、役場等に限定されているため、夜間や休日に関覧することができない。例えば、豊富町の場合、縦覧場所は夜間や土日祝に開館していない役場の一箇所のみだった。このため、休日は夜間も開館している公共施設で閲覧できるようにするべきである。
2. 縦覧期間のみインターネット上で閲覧可能であるが、ダウンロードや印刷ができない。各数百ページもある準備書7冊をPC上のみで閲覧することは現実的な方法と言えない。北海道知事意見でも同じことを指摘しているため、従うべきである。このため、インターネット上で準備書のダウンロードや印刷が可能とするようにするべきである。
3. 縦覧期間終了後に準備書の内容が実際と齟齬がないか精査することができないため、閲覧期間に限らずにいつでも閲覧可能にするべきである。それによって調査によって得られた知見が今後の事業に生かされることが期待される。

■地元や関係者への説明

・風車建設は今後の地元がどう進むべきかを取り組むにあたって検討すべき重要な事項であるが、以下の点から地元への説明が不十分であるため、理解や同意を得られない状況にない。早急に改善を図るべきである。

1. 私たちの団体（特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク、日本野鳥の会、日本野鳥の会道北支部、北海道ラムサールネットワーク）を重要視し、個別の説明を行ったことは評価できる。しかし、非公開資料の説明や開示が十分なされておらず、準備書の内容についても十分な説明がない状況だった。また、説明に訪れた担当者が準備書を携帯していなかった場合があった。説明は準備書を開きながら同じ情報を共有した上で一緒に内容を検証するべきであり、必要に応じて非公開資料も含めて開示するべきである。
2. 説明に訪れた担当者は環境影響評価に対する専門知識が不十分で、私たちの指摘事項に関して十分な回答を得ることができない場合があった。このため、説明には環境影響評価の専門職員が同行し、必要に応じて現場担当者も同行するべきである。
3. 豊富町民に直接問い合わせてみたところ、事業の存在自体を知らない人が多く、知っている人でも建設規模など詳細を知らない人がほとんどだった。これは説明会の回数が少ないことや、準備書が閲覧しやすい場所に常時置いていないこと、一般が理解しにくい内容であることによる広報の不十分さの結果と考える。これを改善するために、説明会の回数を増やし、準備書が土日を含め開館されている公共施設に設置し、いつでも誰でも閲覧できるようにし、一般向けにわかりやすい内容のものを別途作成するべきである。

■騒音調査

- ・風車建設予定地から1km以内などの近い場所に人家等があるため、低周波騒音によるストレスが懸念される。海外ではこの被害が認められており、施設からの距離制限もある。従って、その影響（複合的影響を含む）について精査するべきである。また可能性のある影響や、影響が出た場合の対応内容を示すべきである。

■景観調査

- ・現状では景観による影響に関して適切な評価ができない状態である。以下の点を改善して再調査するべきである。
 1. 眺望点の多くが観光地等に限られており、風車に近い地元の小さな集落や牧場など地元の人が利用する場所からの眺望地点がほとんどない。眺望地点は風車建設予定に近く景観の影響が大きい場所（移動中を含む）を優先して調査するべきである。
 2. 風車建設計画地に対してその地点の中でもっとも見通しの良い場所が眺望点として選ばれていない。最も見通しのよい場所を眺望点として選ぶべきである。
 3. 観光客のみならず、地元にとっても重要な利尻富士と風車が重なるまたは近い場所での（移動中を含む）景観の調査と評価が行われてない。このため、それを行うべきであり、そのような場所における風車の建設を避けるべきである。
 4. 眺望点からの写真撮影に際して、見通しがよい日の、見通しのよい時間（順光）が選ばれず、360度の撮影とイメージ図が四季を通じて行われていない。これらのことは北海道知事意見でも指摘されている。また、利尻富士が眺望できる日に撮影しておらず、調査位置図から利尻島が除外されている。このため、写真撮影に際して、以上に挙げた条件を満たした日に行うべきである。
 5. 風車建設イメージ図で風車をはっきりと描かれていないので見えにくい。風車をはっきりと描き、広角だけでなく、標準レンズによる写真を示すべきである。また、鳥類と景観を撮影する事態を想定して中望遠程度（例えば200mm相当）で撮影した写真も加えるべきである。
 6. 周辺の道路沿線から風車が見え続ける景観について調査されていないので、調査を行い、影響を評価するべきである。

- ・風車の建設により以下の点、ラムサール条約湿地・国立公園としてのサロベツの資質や宗谷地方の魅力（共に観光資源）が損なわれることが懸念されるため改善するべきである。それが原因で利用者が減少したことが明らかになった場合、どのように責任を取るつもりか明らかにしていただきたい。

1. 巨大な人工物などが何もない風景が魅力のサロベツからの眺望に風車が入る（特に芦川・豊富山・勇知）ことにより国立公園としての資質（観光資源など）を大きく損なう恐れがある。サロベツから視認可能な場所における風車の建設を避けるべきである。
2. 宗谷地方から利尻富士が見える眺望に風車が入ることにより、景観としての宗谷地方の魅力が大きく損なわれる恐れがあるため、避けるべきである。

- ・アンケート調査は以下の点から有効な結果とは言えない。内容を改善した上で再調査するべきである。

1. アンケート調査地点が観光地に偏っているため、地元の意見が十分に反映されていない。このため、地元の意見を聞くべきである。
2. 風車があることを前提とした質問ばかりで、何もない風景に風車がある場合や、利尻富士またはその周辺の風景に風車が重なる場合などの美しい自然の景観の中に風車が存在することに関する質問項目がない。多くの人がサロベツや周辺地域のなにもない風景や利尻富士の眺望に魅力を感じており、これらの景観に風車が入ることをどう考えるか問うべきである。

■鳥類

- ・私たちは環境保全団体であり、北海道が情報漏洩を心配するいわゆる一般には当たらないと理解している。情報漏洩が心配な場合でも、繁殖期に限定せず全季節のものを開示すれば、飛翔図（特に猛禽類）や行動圏（タンチョウ）から希少種の営巣場所がわかることはないと考えら

れる。このように工夫して開示すれば、一般に開示したとしても希少種の繁殖に悪影響はないと考えられる。従って、調査結果が風車の建設に対して影響のないものであれば、開示しても問題はあるとは考えられない。この状況では私たちの理解を得られる状況になく、環境影響評価を行っている意味が少なくなる。

・以下の理由により希少種の影響を評価することができないため、必要な情報を開示するべきである。

1. 重要種の飛翔図（特に猛禽類）や行動図（タンチョウ）が示されていないので、開示するべきである。私たちが把握する限り、オジロワシの営巣場所に近い場所や重要な越冬地に近い場所に風車の建設計画があるため、風車による著しい影響が懸念される。影響がないのであれば非公開情報を開示し、お互いに納得できる形で影響について検証するべきである。
2. 各調査について費やした時間が示されていないので、確認数が多い少ないを判断できない。調査方法について詳しく示すべきである。

・以下の項目に関して調査が不足しているので、適切な評価ができない。再調査するべきである。

1. ガンカモの渡りについて調査結果では中継地周辺への採餌のための移動がほとんどで、それ以外の場所での記録が少ない。従って渡り経路を十分に把握できていると考えにくい。それを効果的に把握するためにレーダーによる調査が効果的であるので行うべきである。
2. 一般鳥類（小鳥）の渡りについて調査が行われていないため、影響を評価できていない。事業地域は国内における主要な渡り経路である。一般鳥類といえども、大群で渡るのでその影響は無視できない。しかしながら、渡りの時期の一時期の夜間に集中的に動くことが多いとされている小鳥渡り状況が準備書結果からは全く把握できていない。小鳥の渡り状況を把握するためにはレーダーによる調査が効果的であるため行うべきである。

・以下の項目に関して評価が不適切であるため、指摘した点を考慮した上で再評価するべきである。

1. 多くの風車の建設により、バードストライクによる直接的影響以外にも、複合的影響によりガンカモを始めとする渡り鳥経路を塞いでいる。移動経路を塞がれることは渡りにとって大きな影響となる。これは他の事業者との兼ね合いも含めて最悪の事態を想定して考えるべきである（北海道知事意見の指摘事項でもある）。風車建設により渡り鳥の数が減少したり、渡り経路が変わり飛来しないことになれば、国立公園としてのサロベツや宗谷地方の資質（観光資源）を損なうことになる。現在、稚内では道東地方と同様に野鳥の観察を閑散期の観光の目玉とする計画が推進している。従って、渡り経路を塞ぐような風車の建設計画は避けるべきである。仮に風車建設により観光などに対して影響があった場合にどのように対応するのか明らかにしていただきたい。
2. オジロワシ・オオワシは個体数が少ないので、確認頻度（メッシュ図）における確認数は少なくても影響は大きいと考える。当該地域はオジロワシ・オオワシがいない場所はほとんどないため、影響を避けることは難しいと考える。

■哺乳類

・バットストライク（コウモリの風車への衝突）が大きく懸念される。これを避けるために、コウモリに関するさらなる詳しい調査を行うべきである。

■底生動物

・ニホンザリガニの確認位置が示されていないので、改変による影響を評価できないので、確認位置を示すべきである。

以上の意見について個別の回答を求める。